

第3回 小郡市新総合体育館建設実施プラン検討委員会

<議事録要約>

■日 時:平成30年3月28日(水) 14:00～

■場 所:西別館3階 会議室

■参加者:

	氏名	所属
委員	見城 俊昭	副市長
	佐藤 吉生	小郡市体育協会会長
	大津 洋一郎	総務部長
	山下 博文	教育部長
	米田 管子	小郡市スポーツ推進委員会 会長
	福田 喜吉	卓球連盟 会長
	立石 政治	剣道連盟 会長
	原竹 博泰	弓道連盟 理事
	廣田 暢昌	ジュニアスポーツ関係者 代表
	福永 昌也	中学校校長会代表
	福永 美紀	障がい者スポーツ関係者 代表
	飯田 達也	公募
	小田 あゆみ	公募
事務局	藤吉スポーツ振興課長、黒田協働推進課長、熊丸企画課長	
庶務	檜枝管理係長、大野事業係長、有田企画主査	



1. 開会

事務局長(スポーツ振興課長)より、今回の検討委員会の資料の確認と、前2回の会合の反省点を踏まえた会の進め方について確認をし、開会した。

2. 委員長あいさつ

すっかり春になり、きれいに桜が咲いている折ではあるが、大変重要な体育館の建設についての会議ということで貴重な時間をいただく。

今日は、前回事務局が春日市の総合スポーツセンターと、太宰府市の総合体育館に出向いて調査した結果について報告した際、みなさん方の感じたことと、その後に事務局が春日市・太宰府市の体育館使用団体への聴き取り等について追加調査をした結果を受けてのご意見を合わせ、忌憚のないご意見を出してほしい。

今日は何かについて決める会議ではないので、こんなことは言わなくてもいいと思うものも含めて、簡潔に述べていただきたい。また、発言されたことに対する反対の意見等は控え、それぞれの方が自分の意見を自由に言える場にしていきたい。

3. 経過報告

事務局より、前回2月20日の会議以降の経過として、3月9日に春日市、3月16日に太宰府市に事務局が出向き、スポーツ団体に対して新しい体育館についての聞き取りを行ったことが報告された。

4. 議事

(1) 前回の意見集約の確認と県内体育館についての追加情報

前回の意見集約については、本日の委員会の案内状とともに事前に配布していたため、説明を省略する旨が了承され、今回作成した下記の項目の資料についてのみ、事務局より説明を行った。

1. 福岡県内の市町立総合体育館
2. 直営以外の方法で管理または運営されている福岡県内の市町立体育館
3. 鳥栖市の体育館の概要
4. 春日市スポーツ団体への訪問
5. 太宰府市のスポーツ団体への訪問

(2) 意見交流

事務局からの(1)の提起の後意見交流に移り、各委員より下記のような意見が出された。

(以下、その詳細)

〈委員長〉 事前に資料を見ていただくよう配布したので割愛し、要点だけ事務局の方から説明した。早速討論に入りたいと思うが、それぞれみなさん方が思っていること、あるいは再度事務局の方に確認したいことなど、それぞれランダムに意見をお願いしたい。

〈A委員〉 この検討委員会というのは、どういう体育館をつくるのかという方向性を決める委員会だと認識している。

そもそも、近隣都市の同じような(性格や規模の)体育館が小郡市に必要なかというのに、自分はちょっと疑問を持っている。観客が多く入る施設とか、大きな大会ができる施設っていうのが本当に必要なのか。今、久留米市にも新しいきれいな体育館ができたりして、イベントを小郡市でするということは少ないのではないかと。そういう規模の大きさのものをつくると、利用料金も上がって市民の方には負担になる。かといって、小さい規模ならば、逆に今ある学校にある体育館で充分賄えると思う。大きいものでもなく小さいものでもなく、中ぐらいという体育館というのであれば、中途半端なような気もする。

自分の意見としては、体育館というくくりをとって屋内練習場のようなものと、少しとらえ方を変えてみたらどうかな、という意見をもっている。

具体的には屋内競技で言えば、バレーボールやバスケットならば、チームの練習風景を録画できて、隣で、ミーティングルームですぐに見ながら話し合いができる、という機能があるとか、また屋内競技だけでなく、筑後のタマホーム・スタジアムの屋内練習場みたいなものを併設し、球速が測れる機能があれば、屋内以外の野球などのスポーツの屋内練習場として利用することができるとかであれば、利用料金が上がっても、多少の納得はで

きてくると思う。

何かしらほかの施設にないもので、ほかの施設にない機能を備えておけば、ちょっと高い料金でも利用したくなるのではないかな。

また、練習を中心に考えた施設とすることで、練習は日々のことなので利用者数も増えて、がらんとした雰囲気もなくなりやすいのかな、というふうに思っている。

他の体育館とは違うもの、小郡市の体育館なら、あの練習ができるよね、とかあそこには屋内練習場があるから、日没が早い冬でもできるよね、じゃ、予約とろう、とかいうように人気の施設をめざす方がいいのではないかなと思う。

〈B委員〉

私なんか、このなかの何人かは、貧しい時代に育ったので、施設があるということだけで、すごくありがたい。

しかし今の体育館は、バレーをするには天井が低い。バドミントンの方も天井が低いとおっしゃる。また、床も不安をもったまま練習をしている。

また、利用者は小郡市は頻度が高いと思う。特に夕方からの時間は、ある意味とりあいになることが多い。小学校や中学校だけでなく各校区に体育館があれば本当はいいのだが、それは今の状態では難しいかなと思う。

ぜいたくなものはいらないが、みなさんが使える、あってよかったね、と言ってもらえるような体育館で、空調施設もあった方がいいと思う。だから後で手が入れられて、変更が可能な部分は（工事を）残して、そういった体育館ができたらいいいかなと思う。

鳥栖市さんが駐車場がちょっと手狭かなとおっしゃったが、そのために駐車場を、ではなく、空地でもいいからスペースがあれば駐車場としての整備はしなくてもいいのではないかな。

〈C委員〉

他市の例を見ると、武道場が多目的アリーナの用途の一つになっているものがある。

私どもが剣道をやる場は、やはり道場である。試練とか鍛錬とか、そういう気持ちで接している。だから道場に入る時には、今まで仕事をしてたり遊んでたりして、ふらついた気持ちを、ここでぴしっと切り替える場だと考えている。

しかし、実は小郡市の武道場も、柔道場の方が空いていた時、そこを新体操の団体が使用することがある。子どもたちのスポーツ団体としては同じだが、我々はきついけど頑張るという姿勢で、一つは遊びの延長みたいな、こういう言い方は失礼かもしれないが、武道とは離れた競技をやってある。

仕方ないとは思う。スペースの問題とか、いろいろあると思うが、やっぱり武道として、道場というふうにとらえてやっている者としては、気が散る。子どもの指導上もいろいろ難しいし、そちら側の保護者の姿勢にも疑問がある。いつもは正面に床の間に向かって礼をし、そしてお互いに礼をして練習をするのだが、そのような団体が使っている場合には床の間は子どもたちの物置になっており、保護者が座ってしゃべっている。そこに向かって礼をしろとは、とてもじゃないが子どもたちにも言えない。

だから武道としては、難しいだろうが、多目的アリーナのような形の扱い方をされる

と、我々としてはちょっと…という感がある。

〈D委員〉 私はある程度、やはり近隣市町村と同程度という願いばかりで、あとはあくまでも人口と今の債務、納付人口の関係を考慮した施設であればいいかと思っている。

それで、先ほどBさんの方から天井の高さとかが言われたが、本当に手狭な関係のなかで、ジュニア関係でも近隣の市町村に迷惑をかけながらやっているなかで、久留米で今度大きい体育館ができるから、大きい大会とか必要ないでしょうとか、いろいろご批判も出ていると思うが、やはり近隣の市町村と同程度の体育館を、ぜひともつくってもらいたいと思っている。

〈E委員〉 私は前からずっと言いよるけれども、やっぱり問題はお金。お金が本当にいる。1年間に10億くらい貯めていかないと、形にはならないと思う。

やっぱり、40億なら40億ぐらいのお金がいるということであれば、そういうふうな進め方で。春日市はお金がかかっているから、そこまではいかないと、と思うし、太宰府の規模ではもの足りん、というのはあるだろうが、いずれにしても具体的な数字を出して予算をたてながら、議会にも理解を得て、10億なら10億ぐらい貯めて、5年くらいには少なくともできる、というような具体性が必要ではないか。討論しても、全然できないならなにもならない。

だから、やるなら今勢いがある時に、ある程度の、小郡市に見合った体育館にしよう、と。そのためには、どのくらいのお金がいるのか、そのお金に向かってやっぱり、討論していかんと。

その代わりに、いいことばかり言うても、それはできない面があると思う。

私は40億なら40億でよか、と。その場合はなにがいる、なにがいる、という話を具体的にしていかないと、いくら意見を言うても実現しないならなにもならない。お金のことも含めた、現実的な話をしなければならないと思う。

〈委員長〉 本当は、お金の枠を決めて討論するのも大変大事なことだが、そこからいくと、もうこの話はやめとこうか、というふうになってしまう。それではやはり、ここにおられるみなさんの願いというものが、どうも前に行きそうにもないから、お金の話は抜きにして、ということでこの会議は進めているが…

〈E委員〉 いや、いくらいい施設の話ばかりしても、それができないなら、なにもならないではないか。ただ、今の体育館はできた時はとてもいいものだったと思う。しかし、今の時代では、あの程度ではいけないと思う。今以上のものにするには、お金が必要。春日市のようなものは、つくれないだろうが、いい話だけではなにもならない。

だからやはり、ある程度の、小郡市に見合ったプランを作らなければならないと思う。

〈F委員〉 みなさんの意見と一緒に、やっぱり体育館は市民のためにつくるべきだと思うので、たとえばアスリートを呼ぶだったり、大きな大会をしようだとか、そういう目的でない



方が、私はいいと思う。

私は、ここに書いてある、民営の方のコナミさんとか、シンコースポーツさんとか、ライバル会社になるが、そちらの会社の方に所属して、太宰府市、春日市、篠栗、北野町のトレーニング室で指導している。

近くで言ったら、久留米の北野町の「コスモスマイル北野」が設立されて、久留米市の委託で指導していたが、指導、委託された会社は、そこを盛り上げようと一生懸命いろいろなものを企画して、いろんなものを提供する。なので、小郡に体育館ができて、もし民営化されるとしたら、そこに市民を入れるために、会社は市民のために、すごくいろんなアイデアを出して、いろんな企画をつくってくださると思う。だから、ここでいろんなことを話すよりも、そういうふうなところに任せた方がいいのかな、とちょっと思った。

今、春日では、子どもたちに「目のアイトレーニングをしよう」というのを謳って、子どもを集めているが、やっぱりそれで春日市民がバッと集まって、子どもがいろんなトレーニングをし出したそう。なので、私たちはここで何をしようかっていう話をしても、たぶんまとまらないと思うので、どうしたら使い勝手がいいかっていうことを話し合っ、市民が集まる体育館をつくった方がいいと思う。

競技をされている方は、小郡でできないものは、筑紫野市でも佐賀にでも行くし、どんな手段をとってもどうやってでも、スポーツされるものだ。だから、特に競技はしていないが、運動したいなっていう人が集まる体育館にするためには、やはりこういう多目的ルームだったりとかトレーニング室とかを充実させ、市民がいつも集まれるようなものをつくっていただけたらな、と思う。

〈G委員〉

一番問題なのは体育館の性格だと思う。

自分は都城の方にちょっと行ってきた。自分も弓道のいろんな大会があるので、北九州とか諫早の県体育館とか、いろんな所に行くが、今度、都城は何千人規模で全国大会が開催された。その理由としては、あそこは弓具、弓のつくるところということもあるが、市全体でそういうふうな、都城っていうのは、そういうイベントをいっぱい背負い込んでいる。で、そこのホテルやらは、予約がとれないほどの状況だ。市全体でそのように人を呼ぶことで、産業を振興する意味も兼ねている。

そのへんのことで言えば、小郡の方は、夏8月に「七夕の弓道大会」をしている。

小郡は七夕の里っていうキャッチ・フレーズにちなんで、メインテーマは、男女ペアとなっており、参加も非常に多い。

また、話は施設のことになるが、総合的な施設となれば控室も充実している。都城はサブアリーナもあるが、ここには女性専用の控室が独立したような形である。そこに行けば、女性もちょっとくつろげる、とか。こういうような使い方ができるのはいいなと思った。

さっきの話にも出てきたが、武道の方は確かに環境の問題はある。先日も鳥栖市の施設を借りたが、横に長崎本線が通っているため、列車が通ると、一瞬こう緊張が…小郡

も夜、練習していると、大分道でピーポーピーポーいって、すぐ横では消防車がパーッパーッパーッと…それも一つの環境だが、武道は武道で、そういう厳しい面がある。

ただ、今一番考えるのは、ここに書いてあるように、市民が利用できるような体育館なのかとか、市民のスポーツ振興をめざすのかとか、そのへんが一番大きなテーマかなと思う。今は子どもたちも家の中、部屋の中ばかりにいて、外で遊んでいない。これは、スポーツする場所がないのか、そのへんは我々にもわからないが、昔はその年頃は外で遊んでいたものだ。抽象的な意見だが、そうしたことを踏まえ、将来の子どもたちのことも考え合わせて、どのような方向に向けたらいいのかを、我々が真剣に考えなければいけないのではないかと思う。

〈委員長〉 ちょっと教えてほしいことは、体育館の中に併設されている弓道場で、いわゆる神棚があるところはあるか。

〈G委員〉 体育館の場合は、ほとんど国旗。今度久留米とかでも、たぶんもめると思う。

同じ道場の中でも、神棚があるところと、国旗があるところと、分かれている。

我々使う方からすれば、国旗もいいが、どうしても神棚の方が…特にまだ自分の不得意な場面に直面した時、心技体の精神面、心の面が大きく、つつい目をつぶって神棚に向かうことがある。

※ ここで約10分間の休憩

〈H委員〉 みなさんの話のなかに高齢者とか子どもとかいう話も結構出ていたが、実際にスポーツをやっている人とか、やっていない人、これからやろうという人たちも含めて、みんなが使えるような施設がほしい。

料金の問題では、子どもや障がい者に対する割引、スポーツ協会に入っていれば割引がある等、いろんな料金体制が必要ではないか。

また体育館は50年以上使うということになると思うが、50年の途中でリフォームやレイアウトの変更、設備の追加などができる体育施設が欲しい。

さらに、障がい者の立場も考えて建設していただき、健常者と一緒にスポーツを通して交流ができるような施設になればいいと思っている。

それと最後に、委員のみなさんが顔を合わせてはいますが、交流がないので、ぜひみなさんと交流ができる機会が欲しいな、と思う。交流をすると、その後の意見もスムーズに出るんじゃないかな、と思う。

とにかく、規模には関係なく市民が使いやすい性格が必要であると思う。

〈I委員〉 今、小郡市の体育館は中学校の卓球部の大会に使用している。10数面の台が使えますので。小郡市、三井郡、うきは市ブロックの大会の次の、筑後地区大会レベルの大会の使用が可能となっている。だから、筑後地区大会レベルまでの大会が開催できる規模はお願いしたい。

日常的な活動に使うには、今、市内の中学生は減免申請等で安く使えるが、新しい体育館

はどうなるのかなというのが心配の一つだ。別の市の体育館では、施設がよすぎて使うのに高い料金が発生するため、中学生たちは使っていないという状況になるので、それでは困るね、と。あまり小さくて安上がりにしてもいかんやろうな、ということのはぎまで悩んでいる。

意見としては、大型体育館の建設については予算が必要な話で、教育予算も決して潤沢にあるというわけではなく、できるだけ節約することが求められ、また大きな借金ができるのかなあという状況もわかるので、中学校としては大会の規模として、今の体育館でも十分に活用はできているなどということになる。

しかし、せっかくなら、個人的にはある程度の、ぜひ大きなやつ、っていうのはお願いしにくいけど、ちょっと…という望みがある。「市郡大会もされんやんか」とか「検討委員会に入っていないながら、なんで黙ってたか。」と言われるものは避けたい。しかし「お金ないですよ」と事情を理解してもらわねばならない。そのジレンマに悩まされている。

〈委員長〉 では、行政側の意見も。

〈J委員〉 予算の話は今回はまだ置いておくと、規模に関しては、どちらかというと気持ち的には、もっと大きい方がいいのかな、というふうには思うが、やはり本市の人口規模等を考えると、現状より少し大きくなるかなというところだ。個人的な感想のような話だが、バレーコート2面とぎりぎりのコートの間隔を確保する程度、というふうには認識せざるをえないのではないかと、いうふうには考えている。ただ、観客席云々という話になってくると、少し考える要素となり、予算的なものと照らし合わせて、というように考える。

現状の武道場は、体育館と別個の補助事業で建設した経緯があり、今回も同時期にこだわらずに、分けて建設することもいいのかなと考える。

また、他の用途との併用、たとえば防災を加味したところでの体育館、というものも一つの考え方だと思う。併設という形の考え方もあり、たとえば備蓄倉庫あたりが出てきても、それはいいのかなとか、単純に体育館を建てるということにとどまらず、付加価値をつけることによって、補助等がとれる場合もある。そのへんのところを含めたところで、規模や性格などをご審議いただければ、と考える。

〈K委員〉 私も現状の体育館は規模も矮小でありますし、公的な試合を考えると天井の高さの問題とかがあるので、建て替えにあたっては、ある程度の大会ができるような規模の体育館が必要であろうというふうには考えている。

それと、市民がまずはつどいやすく、そして誰でも使いやすいものがやっぱりいいのではないかと。

加えて、スポーツを通して健康づくりにつながるような、いろいろな企画ができるような体育館がいい、と考えている。

〈委員長〉 では事務局からも。今日は代表して a 係長。

〈庶務 a〉 他の委員さんからも同じような意見が出されたように、やはり体育館の性格付けによって、プランそのものが大きく変わってくるため、そこはかなり大事なところだろうと思っている。今後また引き続き委員のみなさまにはご検討いただくことになるが、そこをしっかりと決めていただき、新体育館の建設につなげていっていただければ、と考えている。

また、H委員の方からご提案のあった、50年スパンで体育館を利用するということを前提にした、リフォームだとか部屋のレイアウト変更ができるような設計、つくり、ということに関しては、非常に共感をしており、やはりそれによって体育館が長い期間いい状態、コンディションで、利用ができるようになるのではなかろうかと考えており、そちらもあわせて盛り込んでいただけたらと考えている。

〈副委員長〉 私は柔道部出身なんですけれども、武道というのは精神面が大切で、子どもたちに教えるもなかなか理解してもらえないが、武道というのは「礼に始まって礼に終わる」ところがある。必ず最初は整列して「黙想」と言ったら、気持ちをまず落ち着ける。最後も正座をして反省する。そういったところに武道のよさがあるのかどうかというのは、それぞれの判断があるが。

武道をするための場所をせっかくつくっていただけるならば、今言ったように、ある程度の広さ、周りに余裕をもつためにも観客席がほしい。これまでは、試合場の中に机・いすを持ってきて、観客席も設けて、その中にもう一つ、一つの輪の中に試合場をつくってやってくる。非常に危ない。やっぱり応援の方、保護者の方も来られるので、そういった形でできるように。同じことは体育館についても言え、市の中央にあるということで、小学校・中学校の市内大会、それから大人の大会をするにしても、最低限の規格、寸法がとれたうえで、観覧者の方があんまり突っ込んで迷惑をかけない、というぐらいの広さが必要。もしくは、観覧者には別に席をつくっていただければと思う。たとえば中2階ぐらいに観覧席をつくっていただき、さらにもう少し余裕があるならば、その周りに周回する廊下みたいな形で、ウォーミングアップに使えるように。その他いろんな形に使えるように。

また、防災も兼ね備えたような体育館になるよう、一緒に考えていただければと思う。

コンパクトにするにしても、市民参加が一番だと思う。自分達だけスポーツやる、というふうじゃなくて、市民参加ということになれば、競技者だけではなく、周りに人がいらしていれば、そこを考え、ちょっと余裕があればいいのかなと思う。せめて市内の小・中学校で市内の大会ができ、市民が集えるような環境というのが望ましい。私は常にそういう思いで、この検討委員会にも参加させていただいている。武道に関してだけではなく、共通して言えることは、そういう市民参加、あまり余裕もちすぎると、建設費の面に響いてくるので、そこを合理的にどうギリギリいっぱい、規格通りとれる、そしてその周りの余裕には、競技者しか入れないようにして、応援の方は観覧席みたいなところにいる、そういうものがないなと思っている。

たくさん言いたいことはあるが、小郡は武道場とは言えども、たくさんの方が利用され

ることで、複雑な思いがする場面がある。だからもしかかなうなら、多目的で使える場所、畳の上で行う武道ができる場、床の上で行う武道ができる場と、ある程度指定できるような場所をつくってほしいな、ということ。空いた時間は他の団体が入っちゃいかん、ということではない。市民のためのものなのだから。せっかくつくるなら ある程度種目に応じたものができたらな、ということ。

〈委員長〉 今日だけで終わりではなく、次の視察の後にも意見を集約していきたいと思うが、今日は私の意見は省略させていただきたい。事務局が私の宿題について先ほど説明したが、今後みなさん方と協議をしていくうえで、補足しておった方がいいのかなということについてのみ申し上げていきたい。

資料1ページだが、これを見ていただくと、総合体育館が県内にこのくらいあるというのがわかるが、私の方から補足していきたい。いわゆるサブ・アリーナと中体育室っていうのはちょっと異なり、サブ・アリーナがあるかどうかという点から見ると、豊前市、福岡市の西体育館、篠栗町の体育館は前回に総合体育館の定義としてあげたものとは少し違う。筑紫野市の農業者トレーニングセンターもトレーニングの内容が少し違う。そうなると県下で、総合体育館というのはこの程度しかない。福岡市でさえも、昭和47年のものなので、46年も前の総合体育館が一つあるのみだ。80万都市の北九州も44年前の総合体育館だ。久留米は県立のものもあるが、残るのはこの程度(事務局が挙げた9施設のうち5施設)だ。

下(資料2)は運営形態を調べているが、これは今からみなさんと一緒に議論をしていきたい。

実は私は大野城市の総合体育館について、用地交渉から整備まで担当した。なぜサブ・アリーナをつくらなかったのかというと、市外から大会などでいっぱい来て、市民が使えなくなる、ということでサブアリーナはつくらなかった。また、エアコンもないが、今だったらつけたかもしれない。あの当時は、エアコンは観覧者は欲しがりますがアスリートはいらないと考え、どちらかということ、それも市外の利用者が増えることにつながるから設置しなかった。その代わりに、中学校区別にサブアリーナと小体育室を兼ねたやつを1つつくろう、と。そしてそれが春日市と太宰府市の方が言っていたように、総合体育館もいけれども、身近なところにこういう体育館があれば、という声になっているのではと思う。

だから、春日の方も太宰府の方もどんどん利用される。大野城市民の利用者には補助金制度があって、市民であることや、体育協会加入とかはそれが適用される。なぜ減免じゃないかということ、民間委託との関係がある。職員であれば行政の関係から判断できるが、委託の窓口の人は、これを本当に減免していいかわからない。そういうことから、一度全部お金を払ってもらって、利用者はその領収書を行政職員の方に出し、職員がそれを認めたらそれを返す、というやり方になっている。また、減免にすると不公平が出てくる面もあることから、だいたい指定管理しているところは、減免しているところはない。まあ、太宰府もいろいろ考えて、小学校・中学校の子どもはわかりやすいから、半額にするというルールをつくった。

他にも、がんばっているという人たちとそうでない人たちが同じ料金ではどうか、といった議論も出されると思うが、そういう難しさがあるということをご承知おきいただきたい。

それから、エレベーターは建設前に議論すると、体育館は健康を考えるスポーツ施設だから、「エレベーターは使わせない」「階段を使え」となる。この高齢社会になったとしても、スポーツ施設に来る人たちは健康づくりを兼ねているのだから、エレベーターを使うのではなく、階段を利用してもらおうという発想だ。そして、エレベーターは道具を運ぶ施設となり、そうすると春日市のように1階から3階にすーっと行かず、1階から2階、2階から3階というものでも構わない。しかし、あれば便利だから使いたがる人が多く、「このエレベーターは利用者のみなさん方は使えません」として鍵で停めていることが多い。

それから、時計が小さいというのは、競技によって基本的に見えないようにするものがあるからだ。なぜかというと、ジャッジの時計と設置している時計で誤差が出る。しかし、例えば残り10秒で逆転をした、といわれても観客はわからないから、今は誰でもわかるように時計を見られるようになっている。そういう時は、競技用の時計を備品として出す。

ところが市民主体で考えると、やっぱり何時までしか使えないとわかっていても、腕時計をして練習している人は少なく、そうすると10分くらい前に片付けなければならない時に、時計がなかったら不便、ということが出てくる。

それから、屋内練習場という考え方が出されたが、それは非常に体育館の性格を考える時に、有効だろうと思う。単純に屋内競技をやる施設ではなく、「屋根つき運動場」という考え方、コンセプトで考えていくというのは有意義ではないか。

それから武道室の関係ですけど、私が関わった例では神棚をつくらなかった。

現状を申し上げますと、左側と右側に基本広さほとんど変わらない多目的室をつくり、左側は主に卓球、右側は剣道と柔道というふうにすると、使用頻度が違う。多目的と言っても、やっぱりつくりを見ると、なんとなくやっぱり、右側は靴をはいて使うようなことをしてはいけないのではないかとこのように、日本人の素晴らしさかもしれないが、そういうのが働くのか、主に武道室として使用する側の使用頻度が低くなる。

弓道場もたずねたが、時代がだいぶ変わってきたんだろうと思うが、やっぱり神棚を開けて利用する人は少なくなってきた。閉めっぱなしで使うというのでも出てきている。また神棚そのものがなくなっている傾向があるような気がしている。

それから競技ルールの変更、これは本当に大変だ。テレビ受けするように、オリンピックを機会に変わっている。そういう意味では、いつでもリニューアルできるように考えないといけなくなり、となれば余裕をもってつくっておく必要があるのかもしれない。50年使うことを考えると、そういうふうなこともあるだろう。

太宰府の例についてはいろいろあるが、サブアリーナをつくらなかった件については、3つの施設をつぶして総合体育館とする、という方針から、3つをつぶさず、ある意味、大野城方式を採用したことで、結果的にそういう結論になったという気がする。

大きな大会を誘致するということでは、例えば福岡県のプロバスケット・チームは非常に強いがまだ3部となっている理由は、福岡市の市民体育館の規模にある。プロバスケット協会が決めている観客動員を入れられないからだ。

観客席が600席、700席、800席ぐらいでは、大きな大会を誘致してやるということとは、ちょっと無理だ。たとえば小郡の文化センターは650席だが、大きな公演は無理。

だいたい2000席は必要となる。だから大きなイベントをもってくるような体育館という規模は、春日も太宰府も最終的には考えなかったのかな、と。そのことで、思ったよりイベントが来ないという声が報告されたが、それは当然かなと思う。

さて、前回約束したように、今回は太宰府と春日の総合体育館を視察する。それとあわせて太宰府がめざした、文化にも多目的に使える施設の例として、県の施設であるクローバープラザに行きたい。アリーナはきちんとしたルールや規格に対応しつつ、スポーツ以外にも対応できるように観客席が壁面から出てきて、文化施設に変わる。これは、しかしながらアリーナが大きいから、そうした観覧席の設置には相当な経費がかかる。それから、大野城市のコミュニティーセンターにも行きたい。そこには、アリーナと小体育室があり、小体育室は通常は体育施設だが、やはり観覧席が壁面から出てくるようになっており、そうすると小ホールになる。時間のついでのところにあるため、見ると参考になると思うので合計すると4カ所の視察になり、ちょっと欲張ることになる。

ただ大野城と県の施設については、説明などはなくてもよしとし、行って見るだけ。まあ、トイレ休憩のつもりで、立ち寄って見るだけという程度としたい。質問したりは、太宰府の総合体育館と春日の総合体育館、ということにしたい。

ぜひみなさんをお願いしたいのが、これだけの人数なので、その場でいきなり質問すると回答する方も大変であるし、かと言って事務局に聞かせると同じことになるため、みなさんの方で事前にファックスでも何でもいいから、質問項目があつたら事務局の方に出し、それを事務局がとりまとめて、相手に渡しておいたら、向こうの対応もいいのではないかと思う。項目だけで構わないので、事務局の方に出していただきたい。

(3)今後の「小郡市新総合体育館建設実施プラン検討委員会」開催について

ここで事務局より、次回の視察について下記の点が提起された。

- ・ 時期については、4月20日ごろを考えているが、相手の都合もあり、今日の段階でははっきり確定することはできないこと。
- ・ コースについては、委員長の提案通り、太宰府市総合体育館→大野城コミュニティーセンター→昼食会場→春日市総合スポーツセンター→クローバープラザ（アリーナ棟）の順となること。
- ・ 時間的には、およそ8時半から9時ごろに出発し、17時に戻るようになること。

〈委員長〉 1日丸々はとんでもないという方もおられると思うが、たとえば太宰府であれば駅が隣が都府楼になるので、そこで離団するというだけでも構わないし、昼食までで離団するというだけでも構わない。それは質問項目と一緒に出してほしい。また、視察は行けないという方もあると思う。しかしながら、今回は委員の日程ではなく、相手方の日程を尊重して4月20日ごろということで調整し、決定する。どうしても行けない方については、申し訳ないがご了承いただきたい。また、土日は相手の方に大会が入っていたりして迷惑をかけるので、平日に行く。

それから、施設の方にスリッパがそんなにないので、上靴の準備をお願いします。

4月20日前後に日程を調整したら、みなさん方にお知らせする。出欠を確認すると同時に、質問したい項目があったら箇条書き程度で返信をお願いします。それを事務局の方がまとめて、事前に送っておきたい。また、昼食についてだが、アレルギーとかお持ちの方はおられないか。大丈夫であれば、同じものを頼んでおくこととする。

〈H委員〉 今日3月28日ですね。次がすぐ、1ヵ月ないぐらいに視察というのは…いろいろ都合もあるし普通は1ヵ月ぐらい前に連絡があるようになっているので、前回に視察日をできれば出していただきたかった。仕事があり、休みをとるのが難しいが、4月20日だと1ヵ月ないのでさらに難しい。だから、できれば5月以降の方が、みなさん方も4月の20日前後は、もう多分決まっているのではないかと思いますし、いかがでしょうか。もし4月20日ということであれば、申し訳ないが、ちょっと仕事が決まっており、欠席せざるをえない。

〈委員長〉 ちょっとゴールデン・ウィークが入ると、それが明けると、いよいよスポーツシーズンがやってくるということで、この会のとりまとめを考えていくと、できればゴールデン・ウィーク前に行って、次の段階に入りたい。先ほど私の方から申し上げたように欠席されても視察は実施することをご容赦いただきたい。Hさんだけでなく、他にご都合の悪い方もおられるかと思うが、行った者の責任としてきちんとまとめ、事務局の方でさらに視察結果としてペーパーにまとめてお渡しするので、それで次回の会議には臨んでいただきたい。

5. その他

委員長が確認をとったが、事務局からも委員からも、案件は出されなかった。

6. 閉会

